

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3290200033
法人名	社会福祉法人 せんだん会
事業所名	グループホーム バルツガーデン 1
所在地 (電話番号)	鳥根県安来市荒島2177-14 (電 話)0854-28-9222
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成21年3月10日

## 【情報提供票より】(21年 2月 12日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 9日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	32 人 常勤 24 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.6

### (2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4)利用者の概要(2月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	安来第一病院 吉田歯科クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービス事業として2年目を迎える認知対応グループホームである。小規模多機能型居宅介護事業のデイサービスサービスセンターが併設され、総称して「荒島ふれあいの郷」と言われている。家庭的な環境の中で散歩も自由に行けたり、年間行事などで地元の人との交流も活発である。管理者と職員が一つになって、認知症の人が『自分らしく』生活できるように支えている暖かい雰囲気が感じられた。研修や勉強会なども活発で、施設を充実させサービスの向上を目指して地域に貢献されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で日常的な外出まで到っていないと指摘され、それ以降は、近所への散歩や保育所などにコミュニケーションも心がけ、近隣の人がホームを理解するよう働きかける取り組みがなされた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が自己評価の意義、目的を理解した上で、自己評価項目の良い点、悪い点を話し合い、外部評価を参考にして、職員全体で取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所の現状や利用者の状況を報告して、会議での意見や要望を職員会で報告して、サービスの向上に努めている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会で意見や要望は聞くようにされているが、今後は家族会を開催して、改善につなげていくこと望まれる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭り、公民館行事に参加、ボランティアの訪問によるお茶会、中学生の体験学習を受け入れ、地域との交流に努めている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は地域福祉の充実発展に貢献することを掲げ、その人らしい生活を支援する理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所・玄関に理念が掲示され、管理者が朝礼・職員会議・カンファレンスで理念に沿った介護をしているか振りかえる機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、公民館行事に参加、ボランティアの訪問によるお茶会、中学生の体験学習を受け入れ、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義、目的を周知させ、全職員で改善に取り組んでいた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を定期的で開催して、意見・要望を職員会で報告して、サービスの向上に努め、認知症の高齢者を支える取り組みがなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の運営するケア会議に毎回出席して、意見交換・情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日バイタルチェックを行い健康状態を把握して、異常があれば家族に連絡して対処されていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族から意見や要望を聞き、利用者からの不満があれば話し合いでその都度対応していた。契約時に第三者苦情委員を設けていること説明されていた。	○	利用者や家族が気軽に本音を話せる場、家族会をつくることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	小規模多機能事業所と兼務しているため、馴染みの関係が保たれている。新しい職員が入る場合は必ず紹介されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会や勉強会も積極的で、施設外での研修も可能な限り参加できるよう配慮され、レベルアップは図られ、資格修得も計画が立てられていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学のため施設を開放したり、地域のケア会議に出席して情報の交換してサービスの向上に努めていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学を勧めている。本人の心の安定をはかり、時間をかけてゆっくり馴染めるサービスを提供されていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を尊重して、言葉を交えながら日常生活の場を共有して、共に支え合う関係を築いていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を知るため家族から話を聞いたり、利用者の会話から意向を汲み取りながら、センター方式を取り入れて、利用者の希望に沿うよう努めていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは利用者や家族の意見を入れ、職員間で情報を共有して作成され、利用者の状況にあった計画になっていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に課題があれば、カンファレンスを行い、ケアプラン見直し期間に限らず、対応していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の状況に応じて、受診介助や往診を依頼したり、家族の希望があれば、食事が一緒にできるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は今までのかかりつけ医を継続している。受診の時は、心身の状態を手紙や電話で連絡を取り合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時にできること説明して、職員は重度化に向けて対応できるように研修に参加している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重して、プライバシーを損ねないように配慮して声掛けや対応に気を付けていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のパターンを把握して、安心して生活できるように支援していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、できることはしてもらい、食卓の準備や片付け、お盆拭きを行っていた。食事の時は、同じテーブルで一緒に食べることでさりげないサポートをしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望した時間に入ることができ、拒否のある利用者には、時間をずらしたり日を変えたりしてして、支援が行われていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ること出来そうなこと把握して、その日の体調、気分にあった支援をしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物も積極的に行われ、外出支援がなされていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けなくても安全が保たれるように職員間で連携が取られていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルも作成され、避難訓練、消化訓練を消防署の協力を得て行われた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成や個々による身体状況に応じて対応していた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の花が飾られ、3月には雛人形を飾られた。新聞、テレビいつでも見たりでき、憩いの場が提供されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みのダンスを持ち込んだり、居室に畳を置いたりして、安心できる環境をつくりだしていた。		